

# CLINIQUE

レーザー治療 1 回分と同等のシワ改善効果が得られる複合体成分が明らかに。

2022 年 12 月に開催された日本研究皮膚科学会（JSID）※1  
第 47 回年次学術大会・総会において発表

クリニック研究所は、日本研究皮膚科学会 第 47 回年次学術大会・総会において、「顔のエイジングに関する 測定項目においてレーザー治療と比較した際の、複合体成分の効果を評価する臨床試験」と題し、クリニックの研究するレチノイドを含む複合体成分とマイクロアブレイティブレーザーを用いた 1 回のレーザー治療との累積効果を比較した新しい臨床研究の結果を発表しました。この発表では皮膚と臨床評価におけるアンチエイジング技術の専門性を強調するデータが明らかにされました。

「今回発表された結果は、専門家により処方されたクリニックの複合体成分が目に見えるエイジングサインの改善を促し、レーザー治療 1 回分に代わるシワや小ジワを改善する為の選択肢として提供できるかもしれません」と、エスティ ローダー カンパニーズ、臨床科学のエグゼクティブ・ディレクターを務めるハオ・ウーヤン博士は述べています。

## はじめに

皮膚に対して自然と度重なる影響は、目に見える肌エイジングを引き起こす原因となります。特に影響が大きいのは以下 2 つの過程によるものです。

- 1) 表情を作ったりする際の表情の変化や、食事や会話に必要な筋肉の動きによって皮膚にシワが寄る。
- 2) 加齢に伴い皮膚のコラーゲンやエラスチンなどの細胞外マトリックスの構成成分がダメージを受ける。これに加えて、肌の水分が失われた状態となり、小ジワや肌表面のざらつきが目立つようになる。

クリニック研究所では、肌の自然な修復をサポートする成分を組み合わせた複合体成分が特定されました。

この複合体成分は、目に見えるエイジングサインに対する効果を調べるため、臨床試験で確認され、特にシワや小ジワといった一般的なエイジングサインの軽減を行おうとしている人々に対して皮膚科医が通常行うレーザー治療1回分と比較されました。

## 臨床試験

### プロトコル

試験は中等度の光老化を有する女性を対象に、16週間にわたって使用した複合体成分の累積効果と耐性を評価・比較する臨床試験が実施されました。また、被験者のうちの一部には1回のレーザー治療を行い、16週間後に比較されました。

ベースライン（処置前）、3日目（グループ1のみ）、10日目、および4週目、8週目、12週目、16週目で行われ、刺激パラメータの客観的評価による臨床評定と、主観的評価による被験者の報告が収集されました。

また、有効性パラメータの臨床評価は、ベースライン（処置前）、10日目、4、8、12、16週目に実施されました。VISIA-CRを使用した画像解析は、ベースライン（処置前）、3日目（セル1のみ）、10日目、4週目、8週目、12週目、16週目に実施しました。

被験者はグループ1とグループ2の2つのグループに分けられました。

顔に中等度の光老化を有する40～64歳の女性29名がグループ1に割り当てられ、1回のマイクロアブレイティブレーザーによるレーザー治療を受けました。

一方、顔に中等度の光老化を有する42～65歳の女性42名はグループ2に割り当てられ、1日2回、1回2～3プッシュの複合体成分を16週間塗布しました。

これら二つのグループでの有効性パラメータ測定項目は、Griffithsスコア<sup>※2</sup>という評価法にて10点スケールを用いて評価されました。

## 結果

グループ1（レーザー治療）では、3日目に紅斑（赤み）、乾燥、かゆみ、つっぱり感のスコアがベースラインと比較して統計的に有意に増加（悪化）しましたが、これはレーザー治療後に予想されるものでした。これらの測定項目は、10日目から16週目の試験終了時まで、統計的に有意な変化は認められませんでした。

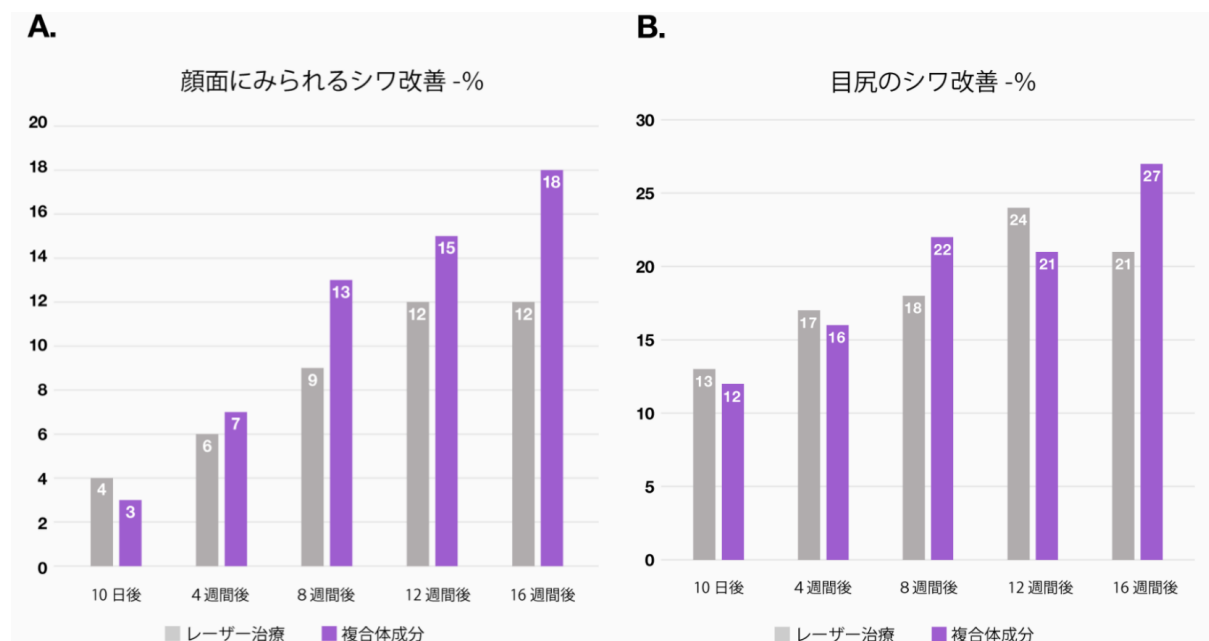
一方で、グループ2（複合体成分塗布）では、ベースラインと比較して、4週目に赤みのスコアに統計的に有意な減少（改善）が見られました。しかし、試験終了の16週目まで、赤みには統計学的に有意な変化は見られませんでした。

また、浮腫、鱗屑、灼熱感、刺痛、疼痛については、グループ1（レーザー治療）、グループ2（複合体成分塗布）の両方でベースライン時のスコアと比較して、いずれの時点でもスコアに統計的に有意な変化（増加または減少）は認められませんでした。

また、安全性評価の指標である、忍容性評価パラメータ測定項目においては比較された2つのグループでベースラインからの平均変化量には統計的に有意な差は認められませんでした。

また、試験期間中には、顔全体の顔面にみられるシワ（図1A）と目尻のシワ（図1B）の臨床的改善率も測定されました。

図1. 各測定箇所における臨床的改善の経時的経過



グループ2（複合体成分塗布）では、グループ1（レーザー治療）と比較して、顔全体の小ジワやシワ、マリオネットライン、ほうれい線、肌の質感、肌のなめらかさ（触感）、顔の輪郭やたるみ、光老化において、より有意な改善が見られました（ $p < 0.05^{*3}$ ）。

また、複合体成分を塗布したグループ2における、目尻の小ジワやシワ、肌の弾力・ハリ（触感）、額のシワ、眉間のシワは同等の改善率となりました。

これらの結果を総合すると、今回の試験で使用した複合体成分は、目尻の小ジワ・シワ、顔全体の小ジワ・シワ、マリオネットライン、ほうれい線、肌の質感、肌のなめらかさ（触覚）、ハリ・弾力（触覚）、顔の輪郭やあごのたるみ、光老化、額のシワ、眉間のシワ、全ての項目の改善において、1回のレーザー治療と同程度またはそれ以上の効果があることを証明するものでした（図2）

図2. 顔の各測定箇所ではレーザー治療と複合体成分を比較した統計解析結果（16週間後）

測定箇所	平均差異	平均差異 $p$ 値	有意差
目尻の小ジワ、シワ	0.51	0.08	同等
顔全体の小ジワ・シワ	0.52	0.001	複合体成分に優位性あり
マリオネットライン	0.2	0.014	複合体成分に優位性あり
ほうれい線	0.16	0.033	複合体成分に優位性あり
肌の質感	0.23	0.009	複合体成分に優位性あり
肌のなめらかさ（触覚）	0.35	0.008	複合体成分に優位性あり
肌のハリ・弾力（触覚）	0.15	0.058	同等
顔の輪郭やあごのたるみ	0.24	0.005	複合体成分に優位性あり
光老化	0.18	0.048	複合体成分に優位性あり
額のシワ	0.1	0.488	同等
眉間のシワ	-0.02	0.811	同等

## 結論

今回の試験から以下二つの事が明らかになりました。

- 複合体成分は優れた忍容性を示し、その 16 週間の使用では、目に見えるシワの減少を含む複数の測定項目において統計的に有意な結果を示しました。
- 複合体成分の使用は、目に見える肌のエイジングサインに対抗する効果的な方法であり、その 16 週間の使用では、特定の測定項目において、レーザー治療 1 回分に匹敵する結果を得ることが分かりました。

## 参考文献

※1. 毎年 1 回、3 日間の日程で開催され、皮膚科学に関わる最新の研究発表が行われる。

※2. Griffiths, C.E.M., et al., A Photonumeric Scale for the Assessment of Cutaneous Photodamage (皮膚の光損傷の評価のための光数値尺度) .Archives of Dermatology, 1992.128(3): p. 347-351.

※3. p 値 (有意確率) が 0.05 (5%) 以下であることを意味する有意差を示す

### 【このリリースに関する問い合わせ先】

ELC ジャパン合同会社 サイエントフィック コミュニケーションズ  
TEL : 03-6625-1910

### 【クリニック ブランド・製品に関するお問い合わせ先】

クリニック事業部 コンシューマー エンゲージメント グループ  
TEL : 03-6625-1202 FAX:050-3737-5139 PR 代表 email:clpr@clinique.co.jp

ESTÉE  
LAUDER  
COMPANIES

### クリニックについて

アレルギーテスト済み\*1。100%無香料\*2。

「健康な肌こそが、美しい肌の基本」とクリニックは考えます。

肌への刺激が少ないまま、効果を最大限に生み出すため、全ての製品において、アレルギーテスト済み。

また肌に刺激を与える要因となる、香料は使用していません。

クリニックは、およそ 50 年の間、600 万回にわたるアレルギーテスト\*1を行ってきました。厳格なガイドラインに基づき、1 回でもアレルギー反応が出た場合は、製品の処方を見直しています。

\*1 すべての方にアレルギーが起きないというわけではありません。 \*2 フランス「クリニック ハッピー」関連製品を除く